

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 10 日

都道府県知事

岐阜県知事

殿

提出者

住 所 岐阜県関市のぞみヶ丘11番1

氏 名 丹羽鑄造株式会社
代表取締役 丹羽 大

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0575-21-6028

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	丹羽鑄造株式会社
事業場の所在地	岐阜県関市のぞみヶ丘11番1
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	(2351) 鋳鉄鑄物製造業
② 事業の規模	9,127百万円
③ 従業員数	183名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<pre> graph LR A[溶解] --> B[鉋さい 炉さい] C[鑄造] --> B B --> D[中間処理委託] B --> E[鉋さい シェカ'ラ] E --> D D --> F[セメント原料] D --> G[RCS原料] B --> H[鉋さい 廃砂] H --> I[収集運搬] H --> J[廃プラ・木屑] J --> I I --> F I --> K[焼却] </pre>

（日本産業規格 A列4番）

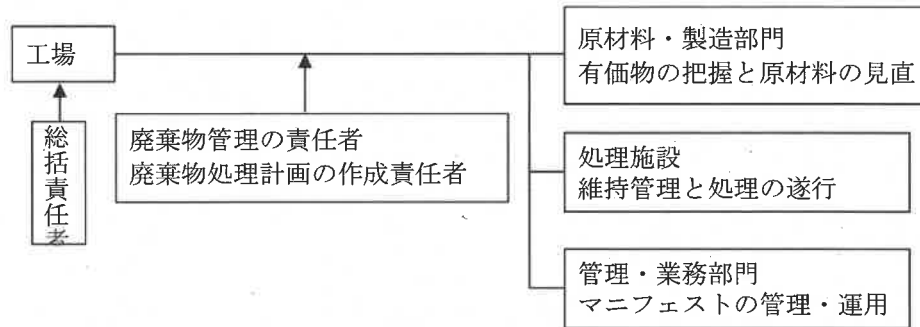


1-12

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	鉍さい (廃砂)	鉍さい (炉さい)	鉍さい (シェルカウ)	廃プラ
	排出量	2052	799 t	1524	24 t
	(これまでに実施した取組) 産業廃棄物処理業者への委託				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	鉍さい (廃砂)	鉍さい (炉さい)	鉍さい (シェルカウ)	廃プラ
	排出量	1970 t	750 t	1460 t	20 t
	(今後実施する予定の取組) 産業廃棄物処理業者への委託				

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 発生時点での徹底分別を実施
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 減量を目標に納入業者と打合せ

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	鉱さい (廃砂)	鉱さい (シェカガラ)
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	鉱さい (廃砂)	鉱さい (シェカガラ)
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	鉱さい (廃砂)	鉱さい (シェカガラ)
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	鉱さい (廃砂)	鉱さい (シェカガラ)
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	鉋さい (廃砂)	鉋さい (シェカガラ)
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	鉋さい (廃砂)	鉋さい (シェカガラ)
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和5年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	鉋さい (廃砂)	鉋さい (炉さい)	鉋さい (シェカガラ)	廃プラ
	全処理委託量	2052 t	799 t	1524 t	24 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	2052 t	799 t	1524 t	24 t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)				

(第5面)

②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	鉋さい (廃砂)	鉋さい (炉さい)	鉋さい (シェルガラ)	廃プラ
	全 処 理 委 託 量	1970 t	750 t	1460 t	20 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)				
※事務処理欄					

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

請
じ
ま
と。

- (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
- (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

中
間

- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

量
行
収
あ
へ

- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

と
の
入

- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙（知事が別に定める様式）

産業廃棄物処理状況（2023年度分）

産業廃棄物の種類（性状）		鉍さい（廃砂）	鉍さい（炉さい）	鉍さい（シエルガラ）	廃プラスチック
産業廃棄物の発生源（製造工程等）		鉍造工程	溶解工程	鉍造工程	検査・荷造工程
特別管理産業廃棄物の有害特性 （該当するものがあれば○印）		Hg Cd Pb Cr As CN PCB トリクロバクロ 腐蝕性 揮発性 毒性 感熱性	Hg Cd Pb Cr As CN PCB トリクロバクロ 腐蝕性 揮発性 毒性 感熱性	Hg Cd Pb Cr As CN PCB トリクロバクロ 腐蝕性 揮発性 毒性 感熱性	Hg Cd Pb Cr As CN PCB トリクロバクロ 腐蝕性 揮発性 毒性 感熱性
(1) 発生量（以下 t/年）		2052t	799t	1524t	24t
(2) そのまま売却した量					
(3) 排出量〔(1)－(2)〕		2052t	799t	1524t	24t
(4) 自ら直接再生利用した量					
中間処理した量等 自ら	(5) 自ら中間処理した量				
	(6) 中間処理方法				
	(7) 中間処理後の売却量				
	(8) 自ら再利用した量				
	再利用方法				
(9) 処理後の残さ量					
(10) 処分対象量〔(3)－(4)－(5)＋(9)〕		2052t	799t	1524t	12t
中間処理委託量	(11) 市町村処理量（焼却）				
	(12) 中間処理委託量				
	(13) 資源化・再生委託量				
最終処分量	(14) 市町村処理量（埋立）				
	(15) 自ら最終処分した量				
	(16) 最終処分委託量				
(17) 保管量		2052t	799t	1524t	12t

廃棄物の種類が多い場合は別葉にすること。

(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。